



分科会の様子



基調講演をする小柳晴生放送大学客員教授



全体会で指導・助言をする渡辺久雄東海学園大学教授

第2回全国国立高等専門学校メンタルヘルス研究集会を開催しました

国立高等専門学校において、学生のメンタルヘルスを担当する教職員の資質の向上を図るとともに、情報の交換を行うことを目的とした、「第2回メンタルヘルス研究集会」が、平成18年1月30日（月）、31日（火）に学術総合センターにおいて開催され、108名の学生相談担当教職員や看護師が参加した。

これまでの高等教育にかかる全国規模のメンタルヘルスに関する研究集会は、専ら大学生に対するものと同等に扱われてきたため、高校生世代から大学生世代に渡る学生を預かる高専にとって、必ずしも実情を十分反映したものであったとは言えなかった。このことから、国立高等専門学校機構の主催で高専の実情を反映した第1回の研究集会を昨年3月に開催し、今年度が2回目の開催となっている。

1日目は、同研究集会を担当する学生支援委員会の高塩至委員長より、開会の挨拶があり、その後は小柳晴生放送大学客員教授（前・香川大学教育学部教授、保健管理センター所長）により「『豊かさを生きる力』を考える」を演題として基調講演が行われた。次に、8つの分科会に分かれてそれぞれのテーマ毎に事例報告や意見交換を行った。

2日目は、午前に分科会が前日に引き続き行われ、午後に全体会で各主査から分科会の報告が行われ、この報告に対し渡辺久雄東海学園大学教授（前全国大学メンタルヘルス研究会代表）が指導・助言を行った。

今回の終了後の参加者アンケートでは、昨年の満足度を7%上回る99%という驚異的な結果を得ることができ、高専機構においては来年度に実施する第3回目の研究集会を開催する準備を進めている。